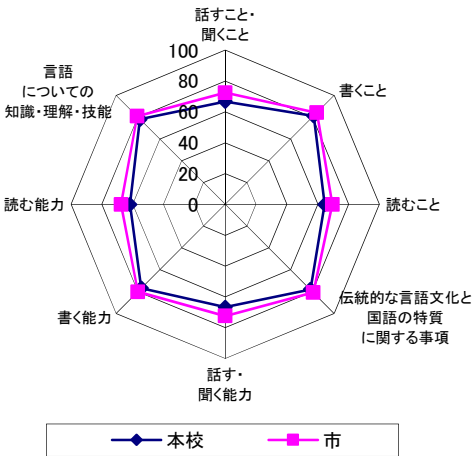


宇都宮市立田原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	66.7	72.4	70.5
	書くこと	81.2	84.1	70.0
	読むこと	64.5	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.0	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	66.7	72.4	70.5
	書く能力	76.8	80.2	68.0
	読む能力	61.8	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	78.1	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

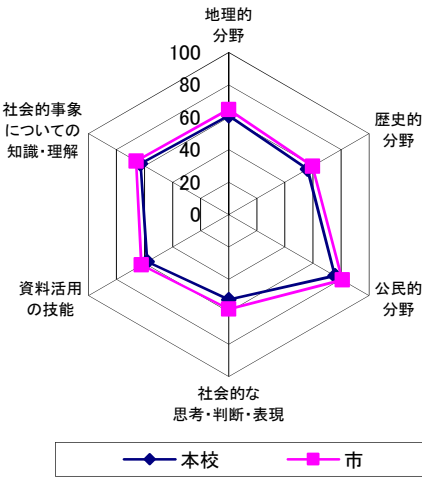
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市より5.7ポイント低い。 ○話の展開に注意しながら聞き取る問題の正答率は91.4%で、市の平均正答率を上回っている。 ●聞き手の意見を反映しながら、論理的な構成や展開を考えて発表する問題では、市の平均正答率を下回っており、聞き取った情報を整理し論理的に思考する点に課題が見られる。	・授業の中で、発表や話し合いの場面をより多く設定し、話の論理的な構成や展開に注意して意見を述べたり、聞き手の意見を反映しながら、論理的な構成や展開を考えて発表したりできるように指導していく。 ・聞き取りテストを今後も継続して実施し、話の内容を正確に聞き取ったり、資料を活用した話し方の工夫を捉えたりすることができる力が身に付くよう指導する。 ・授業以外の場面でも、日頃から教師の指示や友達の発表などに耳を傾けて聞く態度を養っていけるよう促していく。
書くこと	平均正答率は、市より2.9ポイント低い。 ○指定された文字数で書く問題の正答率は87.1%で、市の平均正答率を上回っている。 ●「読み取った内容を明確にして書く」、「自分の考えを明確にして書く」問題は、いずれも市の平均を下回っており、読み取った情報について自分の意見を明確にして書くことに課題が見られる。	・文章を読んだ後に感想や意見を書かせたり、様々なテーマで文章を書かせたりするなど、書く力を伸ばす指導を今後も継続していく。 ・作文用紙の使い方や表現の工夫など、作文の指導を授業で積極的に取り入れ、生徒に作文の書き方を定着させていく。
読むこと	平均正答率は、市より5.0ポイント低い。 ●文学作品・説明文の読み取りの問題の正答率は、市の平均を下回っている。特に、「登場人物の心情理解や人物像を捉えたりすること」、「文章の展開をとらえて、その内容を表すグラフを選ぶこと」に課題が見られる。	・説明的文章の学習では、キーワードやキーセンテンスに着目して文章の構成や要点を整理してまとめたり、段落相互の関係を意識して展開を捉えたりする指導に重点を置いて指導していく。 ・読書活動の推進を継続するとともに、読書を通して長文読解に慣れたり、登場人物の心情の読み取りや場面の展開に即して読み深めたりできる力を育む指導を継続していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市より2.8ポイント低い。 ○「漢字の読み」では、第3学年までの既習漢字3問は96%以上の正答率であり、「仰ぐ」の読みは市の平均を上回っている。 ●「漢字の書き」及び文法の理解に関する正答率は、市の平均を下回った。特に、文法の用言や品詞への理解、敬語に関する知識に課題が見られる。	・授業の中で、漢字小テストを継続して実施し、漢字への関心・意欲を高めるとともに、漢字練習プリントで誤答や間違いやすい漢字の反復練習をさせながら、漢字力の向上と知識の定着を図るようにする。 ・文法の学習では、文例を通して正しく理解させるとともに演習問題で知識の定着を図るよう指導していく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.0	64.8	54.5
	歴史的分野	56.0	59.7	52.2
	公民的分野	75.7	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	52.5	58.3	49.5
	資料活用 of 技能	58.2	62.2	53.1
	社会的事象についての知識・理解	62.9	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

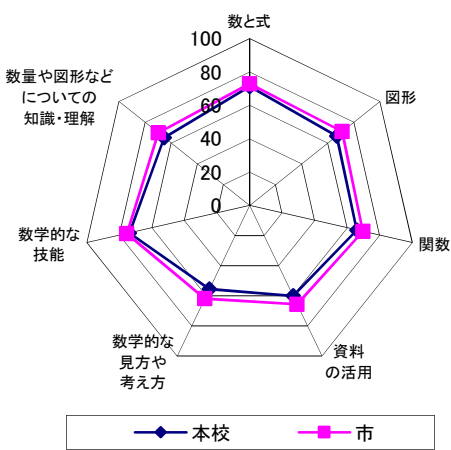
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	市の平均より3.8ポイント低い。 ○世界の州の区分や沖縄県の特徴においては、市の平均を大きく上回っている。 ●全体的に、平均を下回っており、過疎の問題においては、市の平均との差が大きい。	・地域や自然、各地域の産業や文化的特色について理解させる必要がある。基礎的な知識を使って、予想させる練習をさせていく。
歴史的分野	市の平均より3.7ポイント低い。 ○飛鳥・奈良時代の問題については平均を大きく上回っている。 ●江戸時代について、理解が低く、市の平均を10ポイント以上下回っている。	・聖徳太子や聖武天皇など、人物についての理解がやや高いため、時代を人物で学習していく方法が有効と思われる。 ・社会の仕組みの変化については、概念が不十分なため理解ができない面が多いと思われる。抽象的なことについての概念を形成させていく。
公民的分野	市の平均よりも5.2ポイント低い。 ○情報リテラシーについては、市の平均を若干上回っている。 ●現在の社会問題に関して、市の平均を大きく下回っている。	・社会の仕組みについて、既存の知識を結び付けることが苦手な生徒が多い。言葉とその意味を確実に捉えさせ、社会事象を互いの関係から学習させていく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	71.4	73.0	67.5
	図形	66.8	71.1	59.5
	関数	65.9	69.7	60.0
	資料の活用	60.0	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	55.4	61.8	49.6
	数学的な技能	73.8	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	65.4	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

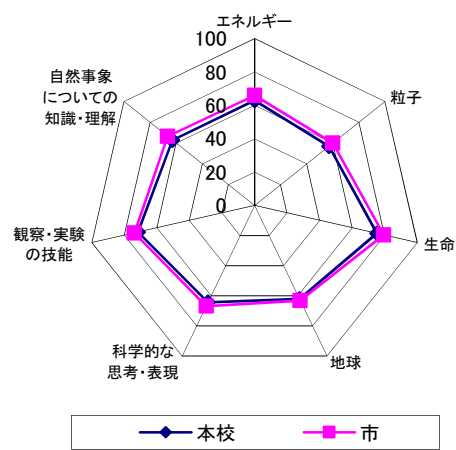
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市より1.6ポイント低い。 ○平方根の有理化や根号を含む式の乗法の問題は、市の正答率を上回っている。 ●1次式の減法の問題では、市の正答率よりも7.5ポイント低い。	・中学1、2年次の内容の正答率が低い傾向にあり、基礎基本の定着が不十分である。基礎的な計算を重点的に行い、基礎基本の定着を図りたい。
図形	平均正答率は、市より4.3ポイント低い。 ○図形を回転移動させた角度についての問題では、市の正答率を3.1ポイント上回っている。 ●三角形の高さを表す線分の作図方法についての問題では、市の正答率よりも10.9ポイント下回っている。	・合同条件を判断し、図形の証明をする問題の正答率は市と同程度の高い正答率だが、作図を苦手としている生徒が多い傾向なので、基本的な作図を反復し、技能の定着を図るよう指導していく。
関数	平均正答率は、市より3.8ポイント低い。 ○比例の式と表の関係性の問題の正答率は市の正答率より6.2ポイント高い。 ●1次関数の式とグラフの関連付けて理解しているかを問う問題では、市の正答率よりも6.3ポイント低い。 ●最も安く印刷することのできる店を判断するために、グラフをどのように読み取ればよいかを説明し、印刷枚数ごとに最も安い店を判断する問題では、市の正答率よりも12.7ポイント低い。	・関数に対しての基礎的な知識や技能は市の正答率と同程度だが、関数の見方、考え方を問う問題が苦手な傾向がある。基礎的な知識や技能をもとに問題を分析、判断する力を養うよう指導していく。
資料の活用	平均正答率は、市より5.6ポイント低い。 ○確率の問題は、市の正答率と同程度である。 ●平均値の含まれる階級の度数がもっとも多いという考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴をもとに説明する問題では、市の正答率よりも12.7ポイント低い。	・確率の問題以外の内容が市の正答率よりも下回っているため、基礎的な事項の確認を重点的に行い、実力を養うよう指導していく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	63.0	66.1	56.4
	粒子	56.9	60.0	57.4
	生命	75.1	79.4	75.2
	地球	62.2	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	64.3	66.8	57.2
	観察・実験の技能	71.6	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	62.9	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

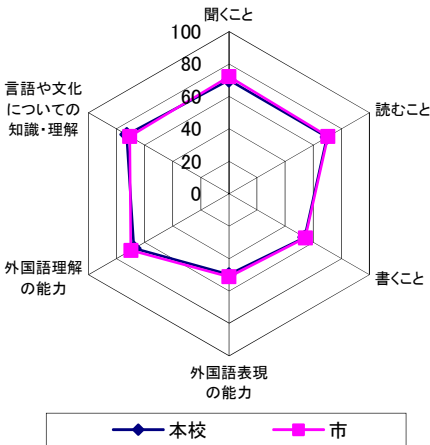
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市より3.1ポイント低い。 ○音の性質における弦を張る強さと音の高低について、市の平均をやや上回っている。 ●電流と磁界において、誘導電流についての理解や電流の向きを逆にする条件の理解が低く、市の平均を大きく下回っている。	・電流にはたらく力の向きや電磁誘導によって生じる電流の向きについて、演習問題に取り組み、その規則性の理解を深めさせていく。
粒子	平均正答率は、市より3.1ポイント低い。 ○ガスバーナーの使い方や物質の状態変化においては、市の平均を大きく上回っている。 ●水溶液とイオンの単元において、理解が低く、市の平均を大きく下回っている。	・学習時間を増やし、水溶液中の水素イオン・水酸化物イオンの数とBTB溶液の色の変化と関連付けて、丁寧に説明する。 ・イオンの他、原子と分子についての基礎知識や元素記号の定着を図るよう指導していく。
生命	平均正答率は、市より4.3ポイント低い。 ○動物のからだのつくりとはたらきにおいて、市の平均を大きく上回っている。 ●植物のからだのつくりとはたらきにおいて、市の平均をやや下回っている。	・光合成の仕組みについて、自然界のしくみをイメージさせながら、図を用いて説明できるように指導する。 ・「植物」の単元において、植物のなかまの増やし方、成長の仕方について、基礎知識の定着を図るよう指導していく。
地球	平均正答率は、市より0.9ポイント低い。 ○地層の単元において、凝灰岩の層が地層を調べる手掛かりになることをよく理解しており、市の平均を大きく上回っている。 ●日本の気象の単元において、風向についての理解が低く、市の平均を大きく下回っている。	・図と表を正確に読み取らせることで、天気の変化を予測できるよう指導していく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	70.0	72.2	67.8
	読むこと	69.9	70.5	70.4
	書くこと	53.9	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	49.9	51.2	49.2
	外国語理解の能力	67.6	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	72.8	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、市より2.2ポイント低い。 ○対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題ではどれも市の平均正答率より高く、比較的短い英文の聞き取りは良好と言える。 ●病院までの道順を聞き取る問題では15.3ポイント、英文の内容を聞き取り必要な情報を聞き取る問題では9.2ポイント低かった。少し長い英文を聞き取り、その中から必要な情報を聞き取るといった問題では課題がある。	・今後も継続して、教師と生徒とのやり取りだけでなく、教師のsmall talkやTTで教師同士の英語を聞く機会を多く設定していく。 ・教科書本文の導入時には、まずは英文を聞かせて必要事項を聞き取るなどの活動を取り入れ、英語を聞き取る力を高めていく。
読むこと	平均正答率は、市よりわずかに下回っている。 ○語彙、語形、語法の知識理解を問う問題では、市の平均正答率を上回っており、基礎基本の定着が図れている。 ●英文の流れから適切なものを選ぶ問題では、市の平均正答率を下回っており、身に付けた基礎基本を活用できるようにしていく必要がある。	・基礎基本の定着が図れるよう、毎時間帯活動として単語や既習文法を繰り返し使う活動を継続していく。 ・読むことといったことに苦手意識のある生徒が多いので、教科書本文を読む際には、興味を高めるよう工夫していく。 ・状況を適切に判断し、その場に合った内容を相手に伝えるなどといった活動を取り入れ、既習事項を活用できる力を伸ばしていく。
書くこと	平均正答率は、市よりわずかに下回っている。 ○現在完了や疑問詞＋to不定詞を使う並べ替えの問題や3人称単数現在時制の否定文を書く問題では、市の平均正答率を上回っている。 ●want＋人＋to不定詞の並べ替え問題では、平均正答率が20.4ポイントと低い。	・新出文法を使って自己表現をしたり、まとまった英文を書く活動を取り入れているので、書くことへの抵抗がなくなったようである。今後も、継続して指導していく。

宇都宮市立田原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における「本時のねらい」を提示と「振り返り」の充実	どの授業も、授業の始めに「本時のねらい」を必ず提示し、その時間に身につけることを明らかにする。最後には「振り返り」を行い、その授業で身につけたことを確認する時間を取るようになっている。	この取組に関わる質問項目はなかったが、今後も継続し、この時間で身につけることを明確にさせ、身についたかどうかを振り返る時間を取っていく。「学校の授業がどの程度分かりますか」の質問には、市の肯定割合より少し下回っているが、学年によって差はあるものの「次の教科などの学習は、好きですか」の質問への肯定割合は市の肯定割合を上回っている教科があるので、嫌いにさせないように、引き続きわかる授業を目指し学習意欲を高めていく。
家庭学習の習慣化	年度当初に、各学年1日の家庭学習時間の目安を提示し、毎日の家庭学習の推進をしている。各学年に合った課題を与え、全員が取り組めるよう工夫している。	「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している」の質問に対する肯定的な回答は、学年が上がるにつれ高くなっているものの、市の平均よりは下回っている。今後も計画的に進めさせ、課題の提出を徹底していく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

主体的に学習に取り組む態度の育成と基礎的基本的な知識の定着を図っていく。継続して家庭学習の習慣化を重点に置いていく。家庭学習の具体的なやり方がわからない生徒も多いので、具体例や方法を示し、充実した家庭学習ができるようにしていく。また、タブレットなども利用して「振り返り」活動を充実させていく。